

皆さん、おはようございます。

前回、ここに集まったのは後期始業式でしたね。まずはそのリフレクションです。

新型コロナウイルス感染は、国内外で拡大していますが、特に海外が深刻な状況で、例えば前回お話ししたフランスでは、再び外出禁止令が出されました。ウイルスに対してでも、この季節に多い台風のような自然災害に対してでも、何よりもまず心構えが大切だとお話ししました。つまり Mindset の話です。本校においては、校訓である Grit、Growth、Global それぞれの Mindset が大事だとお話ししました。

今日は、そのことに関連して「ぶれないこと」について話をします。例えば、今、福島先生が話したことについて言えば、本校は学校のルールについても生徒の皆さんの理解の上で進めて行こう、そういうポリシーの学校であると、皆さんは知っていましたか？

入学直後には、誰もが緊張感がありましたが、徐々に良い意味でも悪い意味でも、皆さんは学校生活に慣れて、馴染んできました。良い意味では、緊張感がほぐれて自分らしさが出せたり、率直な意見交換ができたりするようになりました。逆に悪い意味では、福島先生に指摘されたスマートホンの使い方や、登下校時のマナーのほか、基礎的基本的な自学自習がおろそかになってきているのではないかとこのことを心配しています。

Grit Mindset、困難にぶつかっても、あきらめずにとことんやりぬく力、それを身に付けようとする、皆さんはこのことを普段からキチンと自覚できていますか？ 例えば、毎日の3教科の授業で学習したことを、しっかり身に付けていますか？ 授業中に分からなかったことがあれば、その日のうちに分かるように、必要な取組をしていますか？

前期終業式に皆さんに渡した通知表には、その見方について説明したように、その時点での皆さんの到達度が示されています。それは自分に足りない部分を自分自身で理解して、それを補い高めていくためのものです。それ以後、皆さんはそれを踏まえてしっかりと学習に取り組んでいますか？ 学校に慣れて来て、楽ができるようになると、ともすると人は楽な方に流されがちです。でも、流されないこと、つまり「ぶれないこと」が大事です。

そうは言っても、なかなか一人で自学自習を進めていくのは大変だろうと考え、皆さん知っての通り、曜日ごとに放課後、図書室にサポートをしてくださる先生に来ていただいています。この取組を始めた当初は、日によっては何十人も生徒が図書室に残って自学自習に取り組んでいる様子がありましたが、先週では2、3人という状況でした。サポートの先生を利用すること自体は目的ではありませんので、必要が無ければ利用する必要はありません。でも、自分にとって有効ならば、どんどん利用してもらいたいと思います。そうして Grit Mindset を忘れずに、自分自身を高める努力を積み重ねてください。

ところで皆さん、話は変わりますが、この世に「鬼」はいると思いますか？ 今の世にはいないかも知れませんが、大正の時代の日本には鬼がいたそうです。そして、その鬼たちは人間を食っていたそうです。何の話か分かりますか？ そう、「鬼滅の刃」です。

先日、久しぶりに映画館に足を運んで、「無限列車編」を観て来ました。それまでは「鬼滅の刃」の漫画もアニメも観たことが無かったのですが、こんなにコロナ感染の影響が心配されているのに、どうしてあれほど多くの方が劇場に詰めかけているのか不思議で、観てみようと思いました。いきなり観ても分からないだろうと思い、映画に先立ってテレビアニメ全26話を某動画配信で観ました。これから観る人もいるでしょうから、ネタバレにならないよう、内容は話しません。でも、「鬼滅の刃」を観て、(作品としての面白さはさておき、) 私が強く感じたことは、「ぶれないことがいかに大事か」ということです。

例えば、鬼になった禰豆子(ねずこ)は決して人を食わない。どんな状況になっても、決して人間を襲わず、守り抜く姿が描かれています。映画「無限列車編」ではさらに、煉獄杏寿郎(れんごくきょうじゅろう)の、信念を貫く「ぶれない」姿勢を強く感じました。

先ほど、今の世に鬼はいないと言いましたが、「鬼のような」所業や「人でなし」の行い

は、今でも世界中にあります。とりわけ、自分の生活や安全が脅かされている状況、ましてや生存すら危うい状況では、あり得ないような行いや、具体的に口に出すこともはばかられるようなひどいことも起こり得ます。戦争における戦地での行いなどもそうです。

皆さん、今の世の中、戦争なんて無いと思いませんか？ 確かにわが国では起こっていませんが、例えば中東、例えばシリアでは、もう長い間内戦が続いていて、実は大勢の一般市民が命を落としています。また、隣国のレバノンに逃れた多くのシリア難民は、仕事も無く、食べるものにも困り、ただ生きていくことが難しいと言います。そこでは、鬼の所業、人でなしの蛮行の被害にもさらされているとも聞きます。

「ぶれないこと」、「信念を曲げないこと」は、簡単なことでは無いのです。

さて、本校は皆さんよく分かっているように、探究的な学びを大切にしています。そのため国際バカロレアのプログラムの導入を進めていますが、皆さんが学んでいるMYP（ミドルイヤーズプログラム）は、来年1月の国際バカロレア機構による審査の後、今年度中に正式に認定されるだろうと考えています。また、5年生から希望者が学ぶDP（ディプロマプログラム）も、先日、本校は候補校になり、2年生の皆さんが5年生になるまでに認定を受けられるよう進めています。

国際バカロレアのプログラムは探究的な学びが特徴ですが、これからは全ての小学校、中学校、高等学校でも、今まで以上に探究的な学習が求められていきます。かと言って、基礎的基本的な知識が不要というわけではなく、限られた授業時間の中でどうバランスを取って学んでいくかが大事で、それは簡単なことではありません。皆さん自身、単純な記憶（＝暗記）によらない本校の学習スタイルに苦労することもあると思います。自分の頭でじっくり考えて、ペアやグループで話し合い、答えにたどり着く、時には自分たちで答えを作り出す本校の学習スタイルは、容易ではありません。先生方も、皆さん以上に苦労しながら日々の授業を準備しています。

しかし、本校での皆さんの学びには、はっきりとした目的があります。いつも、繰り返しお話ししていることですが、それは、自分自身の将来を大切にし、より良いものにしていくだけではなく、そのことによって皆さんを取り巻く社会や世界も、より良いものにしていくこと、です。

今日は、最後に少しだけ私自身のことをお話しします。私は、本校の準備から関わり、昨年、開校と同時に初代校長となりました。そんな私が、本校のような教育が必要だと考え始めたのは18歳の時のことです。当時、私は高校3年生で、大学受験を控えていました。私だけではなく、私の周りの誰もが大学受験のために勉強していました。そして皆、中学生の時には高校受験のために勉強して来ていました。しかし私には、「何のためにこういう勉強をするのか」という疑問がありました。13歳から18歳という、人生で最も多感で、キラキラした時代の勉強が、高校受験や大学受験のための暗澹（あんたん）たるものだというのはおかしいと思いました。「何のためにこういう勉強するのか」という疑問は、「何のために生きているのか」、「何のために生まれてきたのか」という疑問でもありました。これはおかしい、これは変わらなければならない、そう思いました。

こんな話をすると、それだけで3時間も4時間も掛かってしまうのでやめておきますが、そんな疑問を抱いてから、本校をつくるまでに実に40年も掛かりました。その間、全くぶれずに来たわけではありませんが、私にとっては、ようやく本校にたどり着きました。

皆さんもぜひ「ぶれないこと」を意識して、これから益々がんばっていきましょう。